

(様式1-2)

習志野市 復興交付金事業計画 復興交付金事業等

基金設置の時期: 平成25年3月 設置の有無: 有

平成26年 5月時点

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	交付 団体	事業 実施 主体	直接/間接	総交付対象 事業費 (注3)	うち、特定市町 村又は特定都 道県以外の者 が負担する額を 減じた額	各年度の交付対象事業費 (注4)					全体事業費 (注5)	全体事業 期間 (注6)	備 考(注7)
									平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度			
1	D - 19 - 1	市街地液状化対策事業	香澄 袖ヶ浦 谷津	市	市	直接	(106,295) 0	0 106,295	0 0	(23,087) 0	(83,208) 0	0 0	0 0	106,295	24 ~ 27	平成26年度は、事業化検討地区における地質調査・液状化対策検討 業務委託30,147千円(国費:22,611千円)を予定。この事業費につい ては、平成24・25年度として既配分された事業費をもって実施するも のとし、年度間流用にて対応する。[H24]92千円(国費89千円)、 [H25]30,055千円(国費:22,542千円)
合 計							(106,295) 0	(0) 106,295	(0) 0	(23,087) 0	(83,208) 0	(0) 0	(0) 0			
(うち市町村交付分)							(106,295) 0	(0) 106,295	(0) 0	(23,087) 0	(83,208) 0	(0) 0	(0) 0			
(うち県交付分)							(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0			
(うち基幹事業)							(106,295) 0	(0) 106,295	(0) 0	(23,087) 0	(83,208) 0	(0) 0	(0) 0			
(うち効果促進事業等)							(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0			

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業等については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3)「総交付対象事業費」は、「交付期間」を通じての全ての事業費を記載する。

(注4)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費を記載する。

(注5)「全体事業期間」は、平成28年度以降に実施することが見込まれる事業については、平成28年度以降も含めて記載をする。

(注6)年度間調整又は事業間流用を行った場合には、「備考」に年度間調整又は事業間流用を行った旨、その時期及び額を記載する。なお事業間流用を行う場合には、流用する(流用される)事業名も合わせて記載する。

(注7)担当者氏名等は県及び市町村の担当者を並べて記載する。

(注8)上段()書きは、前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。なお、下段< >書きについては、自動計算される。

(注9)各年度の交付対象事業費(中段)のうち、様式1-4で提出された年度の値が配分(申請)に係る交付対象事業費となる。

(様式 1-3)

習志野市復興交付金事業計画 復興交付金事業等個票

平成26年 5月時点

※本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	都市防災推進事業（市街地液状化対策事業）	事業番号	D-19
交付団体		国土交通省	事業実施主体（直接/間接）	習志野市（直接）	
総交付対象事業費		106,295（千円）	全体事業費		106,295（千円）
事業概要					
<p>東北地方太平洋沖地震による地盤の液状化現象により著しい被害を受けた地域において、再度災害の発生を抑制するため、公共施設と隣接宅地等との一体的な液状化対策を促進する。</p> <p>地区名：習志野市香澄、袖ヶ浦、谷津地区 計画区域面積：約 350ha 事業費：106,295 千円 うち調査対象面積：87ha（香澄：40ha、袖ヶ浦：35ha、谷津12ha）※袖ヶ浦、谷津地区は被害家屋調査のみ被害家屋調査戸数：2000戸（香澄：700戸、袖ヶ浦：800戸、谷津：500戸）</p> <p>液状化現象により甚大な被害が生じた国道14号以南の地域において、国土交通省策定「東日本大震災による液状化被災市街地の復興に向けた検討・調査について（ガイダンス案）」に従い、液状化対策の検討にかかる地質調査や再液状化判定等を行うとともに、複数の液状化対策工法の概略検討により液状化対策の実現可能性を検討する。その後においては、検討成果を市民に提供しつつ、意見交換を行い、公共施設と隣接宅地等との一体的な液状化対策に対する合意形成が図られた後において、計画を変更（事業費の増額等）し、予備設計、実施設計、工事に取り組むこととする。</p> <p>なお、本事業による復興への取り組みは、震災からの復旧、復興に向けて、平成23年度に本市が独自に設置した「習志野市被災住宅地公民協働型復興検討会議」からの提言に位置付けられるものである。</p>					
当面の事業概要					
<p><平成24年度> 液状化対策にかかる地質調査（事例研究） 地質調査及び液状化対策工法概略検討にかかる業務委託を施行するとともに、学識経験者により構成される「習志野市液状化対策検討委員会」を立ち上げ、公共施設と宅地との一体的な液状化対策について調査・検討を行った。</p> <p><平成25年度> 液状化対策にかかる地質調査及び液状化対策工法の概略検討（事例研究） 地質調査のデータなどを基に机上でのシミュレーションなどを実施しながら、液状化対策の先進的な研究成果や基礎資料の収集を行った。その後、事例研究区域において、事業手法や施工方法の検討を進め、その結果を被災した地区の住民に報告した。</p> <p><平成26年度> 事業化検討地区における地質調査及び液状化対策検討業務 被災した地区の住民との意見交換を進めて、合意形成の見込みのある地区の事業化を検討するため、事業化検討地区における「地質調査」を実施し、「施工方法の選定」「地震応答解析」を行いつつ液状化対策の効果、概算事業費に対する理解を得るべく「液状化対策検討業務」の実施を予定している。</p>					
東日本大震災の被害との関係					
<p>（被害状況） 東日本大震災における本市の被害は、国道14号以南を中心とする約750ha（習志野市袖ヶ浦、香澄、秋津、谷津、芝園、茜浜）の地域に集中している。当該地域においては広範囲に及ぶ液状化現象により住宅地に甚大な被害が生じた。住宅地の被害状況を示す住家の被害認定調査においては、市域全体で全壊9棟、大規模半壊176棟、半壊537棟、一部破損4,524棟に及ぶ被害が確認されている。一方、住宅地と一体となって市街地を形成する都市基盤施設のうち、道路においては隆起、陥没、噴砂等の被害が生じ、下水道においては破損、閉塞による下水道使用不能区域が発生し、その影響は約500haに及んだ。</p> <p>（計画区域における被災状況） 計画区域の住宅地においては、建物の損壊、沈下等による甚大な被害が多数発生している。一方、道路においては隆起、陥没、噴砂等の被害が生じ、下水道においては破損、閉塞による下水道使用不能区域が発生した。</p> <p>さらに、地域防災計画において避難場所として位置付けられた小中学校のグラウンドは、液状化現象による噴砂等によりその機能を十分に果たすことが出来ず、今後の復興における課題として捉えられている。</p>					
関連する災害復旧事業の概要					

(様式1-4)

習志野市 復興交付金事業計画 平成24年度 復興交付金事業等

省庁名: 国土交通省

平成26年 5月時点

※本様式は同一の交付担当大臣が交付する事業等ごとに作成して下さい

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	交付 団体	事業 実施 主体	直接/間接	基本 国費率 (a) (注3)	当該年度(注4)			年度間調整額(注5) (該当する場合のみ記載)		備 考
								交付対象事業費 (b)	交付対象事業費のうち、特 定市町村又は特定都道県 以外の者が負担する額を 減じた額 (c)	うち交付金交付額 基幹事業の場合 (d)=a×b+(c-a×b)/2 効果促進事業等の場合 (d)=0.8c	年度間 調整額 (国費) (e)	調整後の 交付金 交付額 (f)=d-e	
1	D - 19 - 1	市街地液化化対策事業	香澄 袖ヶ浦 谷津	市	市	直接	1/2	(23,087) 0 <23,087>	(23,087) 0 <23,087>	(17,315) 0 <17,315>			【平成26年度事業へ流用】 流用先: D-19-1市街地液化化対策事業(香澄・袖ヶ浦・谷津) 流用額: 92千円(国費69千円)【事業化検討地区における地質 調査・液化化対策対策業務】 流用後交付対象事業費: 22,995千円(国費: 17,246千円)
							合計額	(23,087) 0 <23,087>	(23,087) 0 <23,087>	(17,315) 0 <17,315>	(0) 0 <0>	(0) 0 <0>	

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業等については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3)「基本国費率」は、各交付担当大臣が定める交付要綱に規定される国費率を指す。(制度要綱第2の1の(3)におけるbと同様)

(注4)基金を造成して復興交付金事業等を実施する場合、(b)欄には、当該年度に実施する事業の事業費を、(c)欄には事業費のうち特定市町村又は特定都道県以外の者が負担する額を減じた額を、(d)欄には基金からの取崩額を記載する。

(注5)「年度間調整額」の(国費)(e)は、前年度に制度要綱第1の7の④に該当した場合に記載する。

(注6)上段()書きは、前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。なお、下段< >書きについては、自動計算される。

(様式1-4)

習志野市 復興交付金事業計画 平成25年度 復興交付金事業等

省庁名: 国土交通省

平成26年 5月時点

※本様式は同一の交付担当大臣が交付する事業等ごとに作成して下さい

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	交付 団体	事業 実施 主体	直接/間接	基本 国費率 (a) (注3)	当該年度(注4)			年度間調整額(注5) (該当する場合のみ記載)		備 考
								交付対象事業費 (b)	交付対象事業費のうち、特 定市町村又は特定都道県 以外の者が負担する額を 減じた額 (c)	うち交付金交付額 基幹事業の場合 (d)=a×b+(c-a×b)/2 効果促進事業等の場合 (d)=0.8c	年度間 調整額 (国費) (e)	調整後の 交付金 交付額 (f)=d-e	
1	D - 19 - 1	市街地液状化対策事業	香澄 袖ヶ浦 谷津	市	市	直接	1/2	(83,208)	(83,208)	(62,406)			【平成26年度事業へ流用】 流用先: D-19-1市街地液状化対策事業(香澄・袖ヶ浦・谷津) 流用額: 30,055千円(国費22,542千円)【事業化検討地区におけ る地質調査・液状化対策検討業務】 流用後交付対象事業費: 53,153千円(国費: 39,864千円)
								0	0	0			
								<83,208>	<83,208>	<62,406>			
							合計額	(83,208)	(83,208)	(62,406)	(0)	(0)	
								0	0	0	0	0	
								<83,208>	<83,208>	<62,406>	<0>	<0>	

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業等については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3)「基本国費率」は、各交付担当大臣が定める交付要綱に規定される国費率を指す。(制度要綱第2の1の(3)におけるbと同様)

(注4)基金を造成して復興交付金事業等を実施する場合、(b)欄には、当該年度に実施する事業の事業費を、(c)欄には事業費のうち特定市町村又は特定都道県以外の者が負担する額を減じた額を、(d)欄には基金からの取崩額を記載する。

(注5)「年度間調整額」の(国費)(e)は、前年度に制度要綱第1の7の④に該当した場合に記載する。

(注6)上段()書きは、前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。なお、下段< >書きについては、自動計算される。

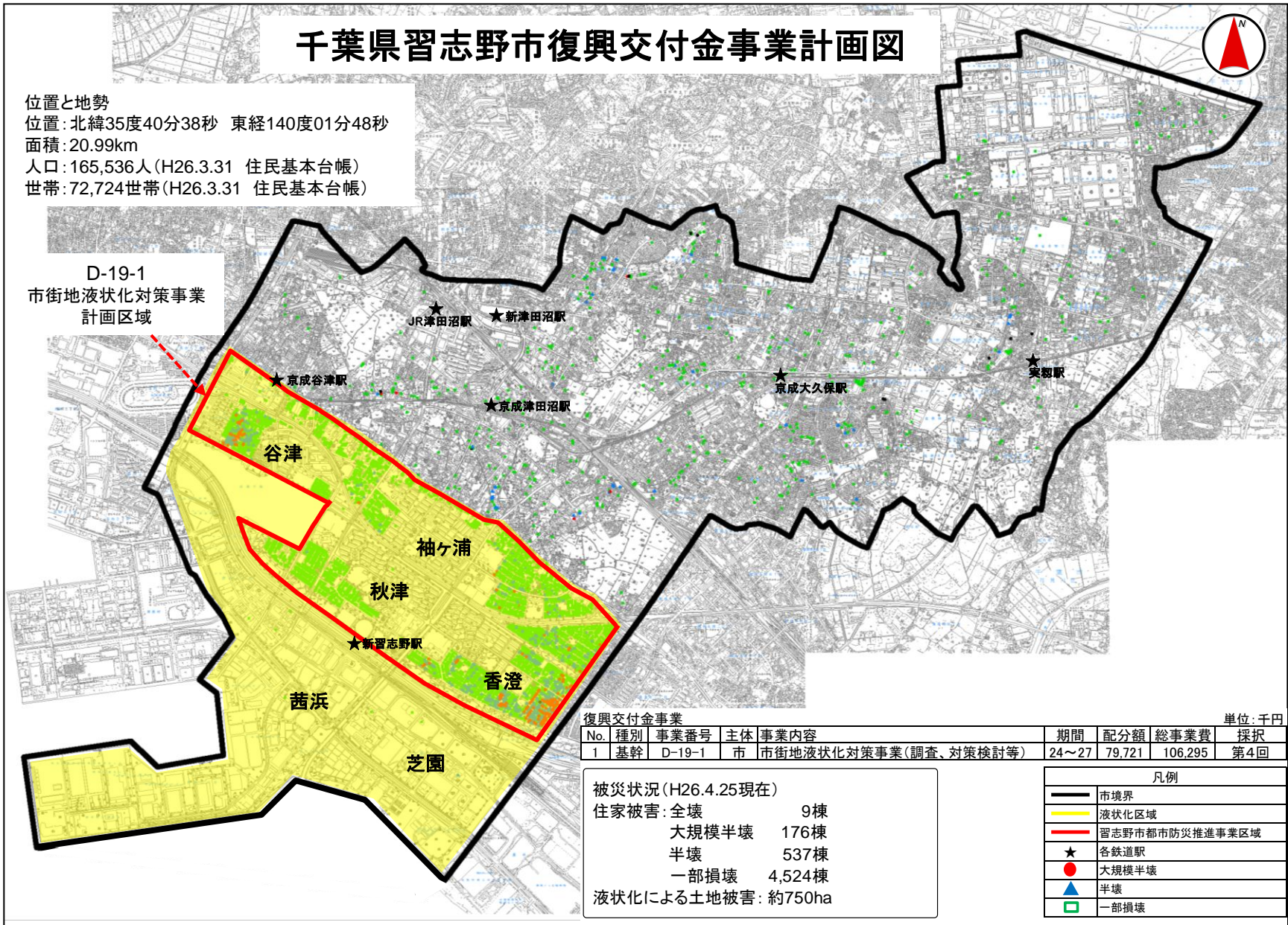
千葉県習志野市復興交付金事業計画図



位置と地勢

位置: 北緯35度40分38秒 東経140度01分48秒
 面積: 20.99km
 人口: 165,536人 (H26.3.31 住民基本台帳)
 世帯: 72,724世帯 (H26.3.31 住民基本台帳)

D-19-1
 市街地液状化対策事業
 計画区域



復興交付金事業

単位: 千円

No.	種別	事業番号	主体	事業内容	期間	配分額	総事業費	採択
1	基幹	D-19-1	市	市街地液状化対策事業(調査、対策検討等)	24~27	79,721	106,295	第4回

被災状況 (H26.4.25現在)

住家被害: 全壊 9棟
 大規模半壊 176棟
 半壊 537棟
 一部損壊 4,524棟
 液状化による土地被害: 約750ha

凡例

	市境界
	液状化区域
	習志野市都市防災推進事業区域
	各鉄道駅
	大規模半壊
	半壊
	一部損壊